

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校未来ビジネスカレッジ
設置者名	学校法人 未来学舎

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	クリエイトデザイン学科		28 単位	6 単位	
工業専門課程	ゲームクリエイター学科		43 単位	9 単位	
商業実務専門課程	ブライダル・ホテル学科		43 単位	6 単位	
商業実務専門課程	トータルビューティ学科		24 単位	6 単位	
商業実務専門課程	医歯薬アシスタント学科		7 単位	6 単位	
衛生専門課程	パティシエ・ブーランジェ学科		49 単位	6 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページに公表 http://www.mirai.ac.jp/information/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校未来ビジネスカレッジ
設置者名	学校法人 未来学舎

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページに公表 <https://www.mirai.ac.jp/information/index.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2021.4.1～2025.3.31	経営・マーケティング
非常勤	会社役員	2024.4.1～2025.3.31	経営・財務・企業関係 構築・人事
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校未来ビジネスカレッジ
設置者名	学校法人 未来学舎

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>授業計画書作成</p> <p>各学科教育課程編成委員会を年2回実施し、教育課程の変更、見直しを行い教育課程(カリキュラム)を確定する。確定後、学科長を中心に年間授業予定、科目担当者配置を立案し、副校長・教務部長の承認を得る。承認後、学科長より各科目担当者にシラバス作成を依頼し、新年度開始前(3月末)までに作成している。</p> <p>授業計画書公表</p> <p>授業計画(シラバス)は各学科長が取りまとめ、授業開始前の学生オリエンテーションの際に年間授業予定(面積図)と各科目別授業計画(シラバス)を学生に配布(紙又はデータ)して説明をしている。また、ホームページの公表時期は6月下旬としている。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>ホームページに公表</p> <p>http://www.mirai.ac.jp/information/</p>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

◆評価方法規程

学則 第10条の1及び2 単位の認定及び学習評価

学生の手引き 3. 学習について 3成績評価 ①～⑦

成績評価方法は学生の手引きに記載され、また各科目による細かい基準は各シラバスに記載されている。

(学生の手引きより)

①成績評価は原則として科目ごと、その終了時に評価する。ただし、再試験により評価しなおすことがある。また、同一名称であっても、末尾に1・2または、A・B等の記号の付されているものは、それぞれ別の科目として取り扱う。

②成績評価は、原則として下記「評価基準」に基づいて絶対評価又は相対評価にて行う。

③評価基準

a. 成績評価はS(秀), A(優), B(良), C(可), D(不可)の5段階とする。

b. 当該科目終了時の、確認試験、中間試験、平素の授業態度、出科率、検定取得状況、ホームワーク状況及び各学科における科目重要度等による総合成績。

<絶対評価> 概ね以下の基準に従って評価する。

S(秀)評価 : ③bの成績が特に優秀な者(到達目標の9割以上)

A(優)評価 : ③bの成績が優秀な者(到達目標の8割以上9割未満)

B(良)評価 : ③bの成績が良好な者(到達目標の7割以上8割未満)

C(可)評価 : ③bの成績がやや劣る者(到達目標の6割以上7割未満)

D(不可)評価 : 以下の各項に該当する者

(1) ③bの成績が著しく劣る者

(2) 授業態度、学習意欲が著しく劣る者

(3) 科目ごとの想定授業時数を出席していない者

<相対評価>

③bの成績を基準にして、学生数の比率で、S(秀)評価:1割、A(優)評価:4割、B(良)評価:4割、C(可)評価:1割程度を目安とする。また、<絶対評価>D(不可)評価の基準に該当する者はD(不可)評価をつける。

S～C評価の者について、その科目の単位を認定し、D評価の者については、単位不認定とする。単位数は、90分授業15コマ分(30単位時間)を1単位とする。(公欠による公欠科については1単位あたり3コマを限度とする。)

各学生の学修成果に基づき、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与を実施している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

◆GPA の算定

個々の授業科目についての成績評価に、それぞれに GPA ポイント※を設定し、「各科目の単位数×GPA ポイント」の和を「履修単位数合計」で除して算出したものが GPA になる。

※GPA ポイントは下表を参照する。

成績評価	内容	GPA ポイント
S	認定	4.0
A		3.0
B		2.0
C		1.0
D	単位不認定	0

$$\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{S 評価単位数} + 3 \times \text{A 評価単位数} + 2 \times \text{B 評価単位数} + 1 \times \text{C 評価単位数})}{\text{履修単位数合計}}$$

GPA は学業成績表に記載される。

あらかじめ設定した算出方法により GPA の数値を算出している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

ホームページに公表
<http://www.mirai.ac.jp/information/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校では以下のような能力を身につけ、かつ、所定の単位数を修得した学生は卒業が認定されます。

[身につける能力]

- ・各分野において業務遂行に必要とされる実務能力
- ・社会人としての基本的能力 (ビジネスマナー、コミュニケーション力、協調性等)
- ・身につけた能力を具体的に証明する資格・検定

[修得する単位数]

専修学校設置基準第十六条に基づき、各学科で定める単位数以上を取得すること。

< 学科別単位数一覧 >

学科名	修業年限	卒業認定単位数
クリエイティブデザイン学科	2	6 2
ゲームクリエイター学科	3	9 3
ブライダル・ホテル学科	2	6 2
トータルビューティー学科	2	6 2
医歯薬アシスタント学科	2	6 2
パティシエ・ブーランジェ学科	2	6 4

[卒業判定の手順]

各学科の卒業認定単位数及び学費の納入を確認し、卒業判定会議にて審議し学校長が卒業を認める。

※各学科所定の修業年限を過ぎても、卒業基準を充たせない者については、卒業判定会議で検討・決定する。

※卒業基準に基づき、本校の課程を修了したことを認定するとともに、専門士の称号を授与する。

卒業の認定に関する方針や学生の取得単位数等を踏まえ卒業を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページに公表

<http://www.mirai.ac.jp/information/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校未来ビジネスカレッジ
設置者名	学校法人 未来学舎

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.mirai.ac.jp/information/pdf/zaimu/mirai-info01.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.mirai.ac.jp/information/pdf/zaimu/mirai-info01.pdf
財産目録	https://www.mirai.ac.jp/information/pdf/zaimu/mirai-info01.pdf
事業報告書	https://www.mirai.ac.jp/information/pdf/zaimu/mirai-info01.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.mirai.ac.jp/information/pdf/zaimu/mirai-info01.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	クリエイトデザイン 学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
2年		62 単位時間／単位	35 単位時間 ／単位	8 単位時間 ／単位	47 単位時間 ／単位		
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		36人	0人	2人	4人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画作成 各学科教育課程編成委員会を年2回実施し、教育課程の変更、見直しを行い教育課程（カリキュラム）を確定する。確定後、学科長を中心に年間授業予定、科目担当者配置を立案し、副校長・教務部長の承認を得る。承認後、学科長より各科目担当者にシラバス作成を依頼し、新年度開始前（3月末）までに作成している。
授業計画公表 授業計画（シラバス）は各学科長が取りまとめ、授業開始前の学生オリエンテーションの際に年間授業予定（面積図）と各科目別授業計画（シラバス）を学生に配布（紙又はデータ）して説明をしている。また、ホームページの公表時期は6月下旬としている。
成績評価の基準・方法

(概要)

◆評価方法規程

学則 第10条の1及び2 単位の認定及び学習評価
学生の手引き 3. 学習について 3成績評価 ①～⑦

成績評価方法は学生の手引きに記載され、また各科目による細かい基準は各シラバスに記載されている。

(学生の手引きより)

①成績評価は原則として科目ごと、その終了時に評価する。ただし、再試験により評価しなおすことがある。また、同一名称であっても、末尾に1・2または、A・B等の記号の付されているものは、それぞれ別の科目として取り扱う。

②成績評価は、原則として下記「評価基準」に基づいて絶対評価又は相対評価にて行う。

③評価基準

a. 成績評価はS(秀), A(優), B(良), C(可), D(不可)の5段階とする。

b. 当該科目終了時の、確認試験、中間試験、平素の授業態度、出科率、検定取得状況、ホームワーク状況及び各学科における科目重要度等による総合成績。

<絶対評価> 概ね以下の基準に従って評価する。

S(秀)評価 : ③bの成績が特に優秀な者(到達目標の9割以上)

A(優)評価 : ③bの成績が優秀な者(到達目標の8割以上9割未満)

B(良)評価 : ③bの成績が良好な者(到達目標の7割以上8割未満)

C(可)評価 : ③bの成績がやや劣る者(到達目標の6割以上7割未満)

D(不可)評価 : 以下の各項に該当する者

(1) ③bの成績が著しく劣る者

(2) 授業態度、学習意欲が著しく劣る者

(3) 科目ごとの想定授業時数を出席していない者

<相対評価>

③bの成績を基準にして、学生数の比率で、S(秀)評価:1割、A(優)評価:4割、B(良)評価:4割、C(可)評価:1割程度を目安とする。また、<絶対評価>D(不可)評価の基準に該当する者はD(不可)評価をつける。

S～C評価の者について、その科目の単位を認定し、D評価の者については、単位不認定とする。単位数は、90分授業15コマ分(30単位時間)を1単位とする。(公欠による公欠科については1単位あたり3コマを限度とする。)

各学生の学修成果に基づき、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与を実施している。

卒業・進級の認定基準

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校では以下のような能力を身につけ、かつ、所定の単位数を修得した学生は卒業が認定されます。

[身につける能力]

- ・各分野において業務遂行に必要とされる実務能力
- ・社会人としての基本的能力(ビジネスマナー、コミュニケーション力、協調性等)
- ・身につけた能力を具体的に証明する資格・検定

[修得する単位数]

専修学校設置基準第十六条に基づき、各学科で定める単位数以上を取得すること。
 <学科別単位数一覧>

学科名	修業年限	卒業認定単位数
クリエイトデザイン学科	2	6 2
ゲームクリエイター学科	3	9 3
ブライダル・ホテル学科	2	6 2
トータルビューティ学科	2	6 2
医歯薬アシスタント学科	2	6 2
パティシエ・ブーランジェ学科	2	6 4

[卒業判定の手順]

各学科の卒業認定単位数及び学費の納入を確認し、卒業判定会議にて審議し学校長が卒業を認める。

※各学科所定の修業年限を過ぎても、卒業基準を充たせない者については、卒業判定会議で検討・決定する。

※卒業基準に基づき、本校の課程を修了したことを認定するとともに、専門士の称号を授与する。

卒業の認定に関する方針や学生の取得単位数等を踏まえ卒業を認定している。

学修支援等

(概要)

担任制による個別相談体制

長期欠席者への指導・対応

①担任教員の個別面談、学生への電話、メール

②担任教員の保護者連絡、保護者面談

③学校長・副校長・学部長面談

④個別カウンセリング(外部連携)

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	13人 (81%)	3人 (19%)

(主な就職、業界等)

印刷、デザイナー、一般事務、製造 など

(就職指導内容)

就職適性診断、職業レディネステスト、個別面談等をふまえたキャリアプランニング指導、就職試験(一般常識、面接)指導、模擬面接、就職ラリーの実施、企業情報提供、企業人・卒業生の講演など。

(主な学修成果(資格・検定等))

WEBクリエイター能力認定検定

Illustratorクリエイター能力認定試験

Photoshopクリエイター能力認定試験

色彩検定 他

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状 (2023 年度)		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
38 人	7 人	18.4%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ①担任教員の個別面談、学生への電話、メール ②担任教員の保護者連絡、保護者面談 ③学校長・副校長・学部長面談 ④個別カウンセリング(外部連携) ⑤各種心理検査の活用		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ゲームクリエイター 学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	93 単位時間/単位	11 単位時間 /単位	17 単位時間 /単位	118 単位時間 /単位		
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		47 人	0 人	3 人	1 人	4 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画作成 各学科教育課程編成委員会を年2回実施し、教育課程の変更、見直しを行い教育課程(カリキュラム)を確定する。確定後、学科長を中心に年間授業予定、科目担当者配置を立案し、副校長・教務部長の承認を得る。承認後、学科長より各科目担当者にシラバス作成を依頼し、新年度開始前(3月末)までに作成している。
授業計画公表 授業計画(シラバス)は各学科長が取りまとめ、授業開始前の学生オリエンテーションの際に年間授業予定(面積図)と各科目別授業計画(シラバス)を学生に配布(紙又はデータ)して説明をしている。また、ホームページの公表時期は6月下旬としている。
成績評価の基準・方法
(概要) ◆評価方法規程 学則 第10条の1及び2 単位の認定及び学習評価 学生の手引き 3. 学習について 3成績評価 ①～⑦

成績評価方法は学生の手引きに記載され、また各科目による細かい基準は各シラバスに記載されている。

(学生の手引きより)

①成績評価は原則として科目ごと、その終了時に評価する。ただし、再試験により評価しなおすことがある。また、同一名称であっても、末尾に1・2または、A・B等の記号の付されているものは、それぞれ別の科目として取り扱う。

②成績評価は、原則として下記「評価基準」に基づいて絶対評価又は相対評価にて行う。

③評価基準

a. 成績評価はS(秀), A(優), B(良), C(可), D(不可)の5段階とする。

b. 当該科目終了時の、確認試験、中間試験、平素の授業態度、出科率、検定取得状況、ホームワーク状況及び各学科における科目重要度等による総合成績。

<絶対評価> 概ね以下の基準に従って評価する。

S(秀)評価 : ③bの成績が特に優秀な者(到達目標の9割以上)

A(優)評価 : ③bの成績が優秀な者(到達目標の8割以上9割未満)

B(良)評価 : ③bの成績が良好な者(到達目標の7割以上8割未満)

C(可)評価 : ③bの成績がやや劣る者(到達目標の6割以上7割未満)

D(不可)評価 : 以下の各項に該当する者

(1) ③bの成績が著しく劣る者

(2) 授業態度、学習意欲が著しく劣る者

(3) 科目ごとの想定授業時数を出席していない者

<相対評価>

③bの成績を基準にして、学生数の比率で、S(秀)評価:1割、A(優)評価:4割、B(良)評価:4割、C(可)評価:1割程度を目安とする。また、<絶対評価>D(不可)評価の基準に該当する者はD(不可)評価をつける。

S~C評価の者について、その科目の単位を認定し、D評価の者については、単位不認定とする。単位数は、90分授業15コマ分(30単位時間)を1単位とする。(公欠による公欠科については1単位あたり3コマを限度とする。)

各学生の学修成果に基づき、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与を実施している。

卒業・進級の認定基準

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校では以下のような能力を身につけ、かつ、所定の単位数を修得した学生は卒業が認定されます。

[身につける能力]

- ・各分野において業務遂行に必要とされる実務能力
- ・社会人としての基本的能力(ビジネスマナー、コミュニケーション力、協調性等)
- ・身につけた能力を具体的に証明する資格・検定

[修得する単位数]

専修学校設置基準第十六条に基づき、各学科で定める単位数以上を取得すること。

<学科別単位数一覧>

学科名	修業年限	卒業認定単位数
クリエイトデザイン学科	2	62
ゲームクリエイター学科	3	93

ブライダル・ホテル学科	2	6 2
トータルビューティー学科	2	6 2
医歯薬アシスタント学科	2	6 2
パティシエ・ブーランジェ学科	2	6 4

[卒業判定の手順]

各学科の卒業認定単位数及び学費の納入を確認し、卒業判定会議にて審議し学校長が卒業を認める。

※各学科所定の修業年限を過ぎても、卒業基準を充たせない者については、卒業判定会議で検討・決定する。

※卒業基準に基づき、本校の課程を修了したことを認定するとともに、専門士の称号を授与する。

卒業の認定に関する方針や学生の取得単位数等を踏まえ卒業を認定している。

学修支援等

(概要)

担任制による個別相談体制

長期欠席者への指導・対応

①担任教員の個別面談、学生への電話、メール

②担任教員の保護者連絡、保護者面談

③学校長・副校長・学部長面談

④個別カウンセリング(外部連携)

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14人 (100%)	0人 (0%)	8人 (57%)	6人 (43%)

(主な就職、業界等)

ゲーム制作会社、IT 関連その他一般企業

(就職指導内容)

就職適性診断、職業レディネステスト、個別面談等をふまえたキャリアプランニング指導、就職試験(一般常識、面接)指導、模擬面接、就職ラリーの実施、企業情報提供、企業人・卒業生の講演など。

(主な学修成果(資格・検定等))

CGクリエイター検定ベーシック

C言語プログラミング能力認定試験

ワープロ検定

情報処理技能検定 他

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状 (2023 年度)

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
----------	----------------	-----

53人	4	7.5%
(中途退学の主な理由) 体調不良(1) 意欲欠如(2)、進路変更(1)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ①担任教員の個別面談、学生への電話、メール ②担任教員の保護者連絡、保護者面談 ③学校長・副校長・学部長面談 ④個別カウンセリング(外部連携) ⑤各種心理検査の活用		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	ブライダル・ホテル学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	62 単位時間/単位	24 単位時間/単位	14 単位時間/単位	40 単位時間/単位		
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		24人	0人	2人	5人	7人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画作成 各学科教育課程編成委員会を年2回実施し、教育課程の変更、見直しを行い教育課程(カリキュラム)を確定する。確定後、学科長を中心に年間授業予定、科目担当者配置を立案し、副校長・教務部長の承認を得る。承認後、学科長より各科目担当者にシラバス作成を依頼し、新年度開始前(3月末)までに作成している。
授業計画公表 授業計画(シラバス)は各学科長が取りまとめ、授業開始前の学生オリエンテーションの際に年間授業予定(面積図)と各科目別授業計画(シラバス)を学生に配布(紙又はデータ)して説明をしている。また、ホームページの公表時期は6月下旬としている。
成績評価の基準・方法
(概要) ◆評価方法規程 学則 第10条の1及び2 単位の認定及び学習評価 学生の手引き 3. 学習について 3成績評価 ①～⑦ 成績評価方法は学生の手引きに記載され、また各科目による細かい基準は各シラバスに記載されている。
(学生の手引きより) ①成績評価は原則として科目ごと、その終了時に評価する。ただし、再試験により評

価しなおすことがある。また、同一名称であっても、末尾に1・2または、A・B等の記号の付されているものは、それぞれ別の科目として取り扱う。

②成績評価は、原則として下記「評価基準」に基づいて絶対評価又は相対評価にて行う。

③評価基準

a. 成績評価はS(秀), A(優), B(良), C(可), D(不可)の5段階とする。

b. 当該科目終了時の、確認試験、中間試験、平素の授業態度、出科率、検定取得状況、ホームワーク状況及び各学科における科目重要度等による総合成績。

<絶対評価> 概ね以下の基準に従って評価する。

S(秀)評価 : ③bの成績が特に優秀な者(到達目標の9割以上)

A(優)評価 : ③bの成績が優秀な者(到達目標の8割以上9割未満)

B(良)評価 : ③bの成績が良好な者(到達目標の7割以上8割未満)

C(可)評価 : ③bの成績がやや劣る者(到達目標の6割以上7割未満)

D(不可)評価 : 以下の各項に該当する者

(1) ③bの成績が著しく劣る者

(2) 授業態度、学習意欲が著しく劣る者

(3) 科目ごとの想定授業時数を出席していない者

<相対評価>

③bの成績を基準にして、学生数の比率で、S(秀)評価:1割、A(優)評価:4割、B(良)評価:4割、C(可)評価:1割程度を目安とする。また、<絶対評価>D(不可)評価の基準に該当する者はD(不可)評価をつける。

S~C評価の者について、その科目の単位を認定し、D評価の者については、単位不認定とする。単位数は、90分授業15コマ分(30単位時間)を1単位とする。(公欠による公欠科については1単位あたり3コマを限度とする。)

各学生の学修成果に基づき、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与を実施している。

卒業・進級の認定基準

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校では以下のような能力を身につけ、かつ、所定の単位数を修得した学生は卒業が認定されます。

[身につける能力]

- ・各分野において業務遂行に必要とされる実務能力
- ・社会人としての基本的能力(ビジネスマナー、コミュニケーション力、協調性等)
- ・身につけた能力を具体的に証明する資格・検定

[修得する単位数]

専修学校設置基準第十六条に基づき、各学科で定める単位数以上を取得すること。

<学科別単位数一覧>

学科名	修業年限	卒業認定単位数
クリエイティブデザイン学科	2	6 2
ゲームクリエイター学科	3	9 3
ブライダル・ホテル学科	2	6 2
トータルビューティー学科	2	6 2
医歯薬アシスタント学科	2	6 2
パティシエ・ブーランジェ学科	2	6 4

[卒業判定の手順]

<p>各学科の卒業認定単位数及び学費の納入を確認し、卒業判定会議にて審議し学校長が卒業を認める。</p> <p>※各学科所定の修業年限を過ぎても、卒業基準を充たせない者については、卒業判定会議で検討・決定する。</p> <p>※卒業基準に基づき、本校の課程を修了したことを認定するとともに、専門士の称号を授与する。</p> <p>卒業の認定に関する方針や学生の取得単位数等を踏まえ卒業を認定している。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>担任制による個別相談体制 長期欠席者への指導・対応</p> <p>①担任教員の個別面談、学生への電話、メール ②担任教員の保護者連絡、保護者面談 ③学校長・副校長・学部長面談 ④個別カウンセリング(外部連携)</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	0人 (0%)	15人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 専門式場、ホテル、旅館、レストラン業界等 など			
(就職指導内容) 就職適性診断、職業レディネステスト、個別面談等をふまえたキャリアプランニング指導、就職試験(一般常識、面接)指導、模擬面接、就職ラリーの実施、企業情報提供、企業人・卒業生の講演など。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 認定ウェディングスペシャリスト 認定ウェディングプランナー 認定ドレスコーディネーター ブライダルコーディネーター技能検定 ホテル実務技能認定試験 レストランサービス技能検定 ホスピタリティ検定 色彩検定 他			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状 (2022年度)		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26人	4人	15.4%

(中途退学の主な理由) 体調不良、対人関係、経済的、意欲欠如
(中退防止・中退者支援のための取組) ①担任教員の個別面談、学生への電話、メール ②担任教員の保護者連絡、保護者面談 ③学校長・副校長・学部長面談 ④個別カウンセリング(外部連携) ⑤各種心理検査の活用

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	トータルビューティ学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	62 単位時間/単位	14 単位時間/単位	3 単位時間/単位	71 単位時間/単位		
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		14人	0人	2人	4人	6人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画作成 各学科教育課程編成委員会を年2回実施し、教育課程の変更、見直しを行い教育課程(カリキュラム)を確定する。確定後、学科長を中心に年間授業予定、科目担当者配置を立案し、副校長・教務部長の承認を得る。承認後、学科長より各科目担当者にシラバス作成を依頼し、新年度開始前(3月末)までに作成している。 授業計画公表 授業計画(シラバス)は各学科長が取りまとめ、授業開始前の学生オリエンテーションの際に年間授業予定(面積図)と各科目別授業計画(シラバス)を学生に配布(紙又はデータ)して説明をしている。また、ホームページの公表時期は6月下旬としている。
成績評価の基準・方法
(概要) ◆評価方法規程 学則 第10条の1及び2 単位の認定及び学習評価 学生の手引き 3. 学習について 3成績評価 ①～⑦ 成績評価方法は学生の手引きに記載され、また各科目による細かい基準は各シラバスに記載されている。 (学生の手引きより) ①成績評価は原則として科目ごと、その終了時に評価する。ただし、再試験により評価しなおすことがある。また、同一名称であっても、末尾に1・2または、A・B等の記号の付されているものは、それぞれ別の科目として取り扱う。

②成績評価は、原則として下記「評価基準」に基づいて絶対評価又は相対評価にて行う。

③評価基準

a. 成績評価はS(秀), A(優), B(良), C(可), D(不可)の5段階とする。

b. 当該科目終了時の、確認試験、中間試験、平素の授業態度、出科率、検定取得状況、ホームワーク状況及び各学科における科目重要度等による総合成績。

<絶対評価> 概ね以下の基準に従って評価する。

S(秀)評価 : ③bの成績が特に優秀な者(到達目標の9割以上)

A(優)評価 : ③bの成績が優秀な者(到達目標の8割以上9割未満)

B(良)評価 : ③bの成績が良好な者(到達目標の7割以上8割未満)

C(可)評価 : ③bの成績がやや劣る者(到達目標の6割以上7割未満)

D(不可)評価 : 以下の各項に該当する者

(1) ③bの成績が著しく劣る者

(2) 授業態度、学習意欲が著しく劣る者

(3) 科目ごとの想定授業時数を出席していない者

<相対評価>

③bの成績を基準にして、学生数の比率で、S(秀)評価:1割、A(優)評価:4割、B(良)評価:4割、C(可)評価:1割程度を目安とする。また、<絶対評価>D(不可)評価の基準に該当する者はD(不可)評価をつける。

S~C評価の者について、その科目の単位を認定し、D評価の者については、単位不認定とする。単位数は、90分授業15コマ分(30単位時間)を1単位とする。(公欠による公欠科については1単位あたり3コマを限度とする。)

各学生の学修成果に基づき、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与を実施している。

卒業・進級の認定基準

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校では以下のような能力を身につけ、かつ、所定の単位数を修得した学生は卒業が認定されます。

[身につける能力]

- ・各分野において業務遂行に必要とされる実務能力
- ・社会人としての基本的能力(ビジネスマナー、コミュニケーション力、協調性等)
- ・身につけた能力を具体的に証明する資格・検定

[修得する単位数]

専修学校設置基準第十六条に基づき、各学科で定める単位数以上を取得すること。

<学科別単位数一覧>

学科名	修業年限	卒業認定単位数
クリエイトデザイン学科	2	6 2
ゲームクリエイター学科	3	9 3
ブライダル・ホテル学科	2	6 2
トータルビューティー学科	2	6 2
医歯薬アシスタント学科	2	6 2
パティシエ・ブーランジェ学科	2	6 4

[卒業判定の手順]

各学科の卒業認定単位数及び学費の納入を確認し、卒業判定会議にて審議し学校長が卒業を認める。

※各学科所定の修業年限を過ぎても、卒業基準を充たせない者については、卒業判定会議で検討・決定する。
 ※卒業基準に基づき、本校の課程を修了したことを認定するとともに、専門士の称号を授与する。

卒業の認定に関する方針や学生の取得単位数等を踏まえ卒業を認定している。

学修支援等 (概要) 担任制による個別相談体制 長期欠席者への指導・対応 ①担任教員の個別面談、学生への電話、メール ②担任教員の保護者連絡、保護者面談 ③学校長・副校長・学部長面談 ④個別カウンセリング(外部連携)

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (100%)	0人 (0%)	6人 (86%)	1人 (14%)
(主な就職、業界等) エステティックサロン、ネイルサロン、その他美容業界等 など			
(就職指導内容) 就職適性診断、職業レディネステスト、個別面談等をふまえたキャリアプランニング指導、就職試験（一般常識、面接）指導、模擬面接、就職ラリーの実施、企業情報提供、企業人・卒業生の講演など。			
(主な学修成果（資格・検定等）) AEA上級認定エステティシャン ネイリスト技能検定 ネイルサロン衛生管理技士 JNAジェルネイル技能検定 シュウウエムラメイクアップ技術検定 日本化粧品検定 色彩検定 他			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状（2023年度）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13人	1人	7.7%
(中途退学の主な理由) 学習意欲喪失		

(中退防止・中退者支援のための取組) ①担任教員の個別面談、学生への電話、メール ②担任教員の保護者連絡、保護者面談 ③学校長・副校長・学部長面談 ④個別カウンセリング(外部連携) ⑤各種心理検査の活用
--

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	医歯薬アシスタント学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	62単位時間/単位	29 単位時間/単位	27 単位時間/単位	12 単位時間/単位		
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		4人	0人	1人	4人	5人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画作成 各学科教育課程編成委員会を年2回実施し、教育課程の変更、見直しを行い教育課程(カリキュラム)を確定する。確定後、学科長を中心に年間授業予定、科目担当者配置を立案し、副校長・教務部長の承認を得る。承認後、学科長より各科目担当者にシラバス作成を依頼し、新年度開始前(3月末)までに作成している。 授業計画公表 授業計画(シラバス)は各学科長が取りまとめ、授業開始前の学生オリエンテーションの際に年間授業予定(面積図)と各科目別授業計画(シラバス)を学生に配布(紙又はデータ)して説明をしている。また、ホームページの公表時期は6月下旬としている。
成績評価の基準・方法
(概要) ◆評価方法規程 学則 第10条の1及び2 単位の認定及び学習評価 学生の手引き 3. 学習について 3成績評価 ①～⑦ 成績評価方法は学生の手引きに記載され、また各科目による細かい基準は各シラバスに記載されている。 (学生の手引きより) ①成績評価は原則として科目ごと、その終了時に評価する。ただし、再試験により評価しなおすことがある。また、同一名称であっても、末尾に1・2または、A・B等の記号の付されているものは、それぞれ別の科目として取り扱う。 ②成績評価は、原則として下記「評価基準」に基づいて絶対評価又は相対評価にて行う。 ③評価基準

- a. 成績評価はS(秀), A(優), B(良), C(可), D(不可)の5段階とする。
 b. 当該科目終了時の、確認試験、中間試験、平素の授業態度、出科率、検定取得状況、ホームワーク状況及び各学科における科目重要度等による総合成績。

<絶対評価> 概ね以下の基準に従って評価する。

- S(秀)評価 : ③bの成績が特に優秀な者(到達目標の9割以上)
 A(優)評価 : ③bの成績が優秀な者(到達目標の8割以上9割未満)
 B(良)評価 : ③bの成績が良好な者(到達目標の7割以上8割未満)
 C(可)評価 : ③bの成績がやや劣る者(到達目標の6割以上7割未満)
 D(不可)評価 : 以下の各項に該当する者
 (1) ③bの成績が著しく劣る者
 (2) 授業態度、学習意欲が著しく劣る者
 (3) 科目ごとの想定授業時数を出席していない者

<相対評価>

③bの成績を基準にして、学生数の比率で、S(秀)評価:1割、A(優)評価:4割、B(良)評価:4割、C(可)評価:1割程度を目安とする。また、<絶対評価>D(不可)評価の基準に該当する者はD(不可)評価をつける。

S~C評価の者について、その科目の単位を認定し、D評価の者については、単位不認定とする。単位数は、90分授業15コマ分(30単位時間)を1単位とする。(公欠による公欠科については1単位あたり3コマを限度とする。)

各学生の学修成果に基づき、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与を実施している。

卒業・進級の認定基準

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校では以下のような能力を身につけ、かつ、所定の単位数を修得した学生は卒業が認定されます。

[身につける能力]

- ・各分野において業務遂行に必要とされる実務能力
- ・社会人としての基本的能力(ビジネスマナー、コミュニケーション力、協調性等)
- ・身につけた能力を具体的に証明する資格・検定

[修得する単位数]

専修学校設置基準第十六条に基づき、各学科で定める単位数以上を取得すること。

<学科別単位数一覧>

学科名	修業年限	卒業認定単位数
クリエイティブデザイン学科	2	6 2
ゲームクリエイター学科	3	9 3
ブライダル・ホテル学科	2	6 2
トータルビューティー学科	2	6 2
医歯薬アシスタント学科	2	6 2
パティシエ・ブーランジェ学科	2	6 4

[卒業判定の手順]

各学科の卒業認定単位数及び学費の納入を確認し、卒業判定会議にて審議し学校長が卒業を認める。

※各学科所定の修業年限を過ぎても、卒業基準を充たせない者については、卒業判定会議で検討・決定する。

※卒業基準に基づき、本校の課程を修了したことを認定するとともに、専門士の称号を授与する。

卒業の認定に関する方針や学生の取得単位数等を踏まえ卒業を認定している。

学修支援等 (概要) 担任制による個別相談体制 長期欠席者への指導・対応 ①担任教員の個別面談、学生への電話、メール ②担任教員の保護者連絡、保護者面談 ③学校長・副校長・学部長面談 ④個別カウンセリング(外部連携)

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）※医療秘書学科

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
6人 (100%)	0人 (%)	6人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 病院、歯科、診療所等医療機関 薬局、その他一般企業			
(就職指導内容) 就職適性診断、職業レディネステスト、個別面談等をふまえたキャリアプランニング指導、就職試験（一般常識、面接）指導、模擬面接、就職ラリーの実施、企業情報提供、企業人・卒業生の講演など。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 医療事務管理士技能認定試験医科（両科） ワープロ検定 情報処理技能検定試験（表計算） 他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状（2023年度）※医療秘書学科

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ①担任教員の個別面談、学生への電話、メール ②担任教員の保護者連絡、保護者面談 ③学校長・副校長・学部長面談 ④個別カウンセリング(外部連携) ⑤各種心理検査の活用		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生専門課程	パティシエ・ブーランジェ学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	64 単位時間/単位	27 単位時間/単位	4 単位時間/単位	51 単位時間/単位		
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		22人	0人	3人	7人	10人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>授業計画作成 各学科教育課程編成委員会を年2回実施し、教育課程の変更、見直しを行い教育課程(カリキュラム)を確定する。確定後、学科長を中心に年間授業予定、科目担当者配置を立案し、副校長・教務部長の承認を得る。承認後、学科長より各科目担当者にシラバス作成を依頼し、新年度開始前(3月末)までに作成している。</p> <p>授業計画公表 授業計画(シラバス)は各学科長が取りまとめ、授業開始前の学生オリエンテーションの際に年間授業予定(面積図)と各科目別授業計画(シラバス)を学生に配布(紙又はデータ)して説明をしている。また、ホームページの公表時期は6月下旬としている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>◆評価方法規程 学則 第10条の1及び2 単位の認定及び学習評価 学生の手引き 3. 学習について 3成績評価 ①～⑦</p> <p>成績評価方法は学生の手引きに記載され、また各科目による細かい基準は各シラバスに記載されている。</p> <p>(学生の手引きより)</p> <p>①成績評価は原則として科目ごと、その終了時に評価する。ただし、再試験により評価しなおすことがある。また、同一名称であっても、末尾に1・2または、A・B等の記号の付されているものは、それぞれ別の科目として取り扱う。</p> <p>②成績評価は、原則として下記「評価基準」に基づいて絶対評価又は相対評価にて行う。</p> <p>③評価基準</p> <p>a. 成績評価はS(秀), A(優), B(良), C(可), D(不可)の5段階とする。</p> <p>b. 当該科目終了時の、確認試験、中間試験、平素の授業態度、出科率、検定取得状況、ホームワーク状況及び各学科における科目重要度等による総合成績。</p> <p><絶対評価> 概ね以下の基準に従って評価する。</p> <p>S(秀)評価 : ③bの成績が特に優秀な者(到達目標の9割以上)</p> <p>A(優)評価 : ③bの成績が優秀な者(到達目標の8割以上9割未満)</p>

B(良)評価 : ③bの成績が良好な者(到達目標の7割以上8割未満)
 C(可)評価 : ③bの成績がやや劣る者(到達目標の6割以上7割未満)
 D(不可)評価 : 以下の各項に該当する者
 (1) ③bの成績が著しく劣る者
 (2) 授業態度、学習意欲が著しく劣る者
 (3) 科目ごとの想定授業時数を出席していない者

<相対評価>
 ③bの成績を基準にして、学生数の比率で、S(秀)評価:1割、A(優)評価:4割、B(良)評価:4割、C(可)評価:1割程度を目安とする。また、<絶対評価>D(不可)評価の基準に該当する者はD(不可)評価をつける。

S~C評価の者について、その科目の単位を認定し、D評価の者については、単位不認定とする。単位数は、90分授業15コマ分(30単位時間)を1単位とする。(公欠による公欠科については1単位あたり3コマを限度とする。)

各学生の学修成果に基づき、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与を実施している。

卒業・進級の認定基準

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)
 本校では以下のような能力を身につけ、かつ、所定の単位数を修得した学生は卒業が認定されます。

[身につける能力]
 ・各分野において業務遂行に必要とされる実務能力
 ・社会人としての基本的能力(ビジネスマナー、コミュニケーション力、協調性等)
 ・身につけた能力を具体的に証明する資格・検定

[修得する単位数]
 専修学校設置基準第十六条に基づき、各学科で定める単位数以上を取得すること。

<学科別単位数一覧>

学科名	修業年限	卒業認定単位数
クリエイトデザイン学科	2	6 2
ゲームクリエイター学科	3	9 3
ブライダル・ホテル学科	2	6 2
トータルビューティー学科	2	6 2
医歯薬アシスタント学科	2	6 2
パティシエ・ブーランジェ学科	2	6 4

[卒業判定の手順]
 各学科の卒業認定単位数及び学費の納入を確認し、卒業判定会議にて審議し学校長が卒業を認める。

※各学科所定の修業年限を過ぎても、卒業基準を充たせない者については、卒業判定会議で検討・決定する。
 ※卒業基準に基づき、本校の課程を修了したことを認定するとともに、専門士の称号を授与する。

卒業の認定に関する方針や学生の取得単位数等を踏まえ卒業を認定している。

学修支援等

<p>(概要)</p> <p>担任制による個別相談体制 長期欠席者への指導・対応</p> <p>①担任教員の個別面談、学生への電話、メール ②担任教員の保護者連絡、保護者面談 ③学校長・副校長・学部長面談 ④個別カウンセリング(外部連携)</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10人 (100%)	0人 (0%)	10人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 製菓、製パン、カフェ、レストラン、ホテル など			
(就職指導内容) 就職適性診断、職業レディネステスト、個別面談等をふまえたキャリアプランニング指導、就職試験(一般常識、面接)指導、模擬面接、就職ラリーの実施、企業情報提供、企業人・卒業生の講演など。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 製菓衛生師 サービス接遇実務検定 ワープロ・表計算検定 他			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状 (2023年度)		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24人	2人	8.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更 (2)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ①担任教員の個別面談、学生への電話、メール ②担任教員の保護者連絡、保護者面談 ③学校長・副校長・学部長面談 ④個別カウンセリング(外部連携) ⑤各種心理検査の活用		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
クリエイティブデザイン学科	160,000 円	580,000 円	270,000 円	施設整備費
ゲームクリエイター学科	160,000 円	620,000 円	370,000 円	施設整備費
ブライダル・ホテル学科	160,000 円	560,000 円	240,000 円	施設整備費
トータルビューティー学科	160,000 円	560,000 円	240,000 円	施設整備費
医歯薬アシスタント学科	160,000 円	600,000 円	200,000 円	施設整備費
パティシエ・ブーランジェ学科	160,000 円	620,000 円	280,000 円	施設整備費
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.mirai.ac.jp/information/pdf/mit-info01.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<ul style="list-style-type: none"> ・主な評価項目 教育理念目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、 学生の受入れ募集、財務、教育の内部質保証システム、社会貢献・地域貢献 ・評価委員の構成 委員の定数：9名 委員の選出区分：8学科それぞれの関連業界または団体の従事者 6名 同窓生代表 1名 大学等に在職する学識経験者 2名 ・評価結果の活用方法 年度末の3月に次年度における学校機関ならびに学科の年度運営方針を各学科、 各部署の長が策定する。この際に学校関係者評価報告書を踏まえた改善方策の 検討を同時に行って年度方針に反映させる。 この運営方針を3月末の教職員全体会議で表明し、次年度4月より各学科・各 部署の長の主導により実施する。新年度運営方針全体の責任者は校長とする。 実施時期は、大きく前期・後期の項目に分け、年間スケジュールに配分する。 		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
清泉女学院短期大学	2022年10月1日 ～2024年9月30日	学識経験者
松本大学	2022年10月1日 ～2024年9月30日	学識経験者
株式会社 たちばな	2022年10月1日 ～2024年9月30日	企業等委員
パン工房 ブール	2022年10月1日 ～2024年9月30日	企業等委員

医療法人社団敬仁会 放射線部	2022年10月1日 ～2024年9月30日	企業等委員
ポアレスチュール	2022年10月1日 ～2024年9月30日	企業等委員
でざいんと	2022年10月1日 ～2024年9月30日	企業等委員
Dog Life Line	2022年10月1日 ～2024年9月30日	企業等委員
卒業生同窓会	2022年10月1日 ～2024年9月30日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.mirai.ac.jp/information/pdf/mit-info02.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.mirai.ac.jp/mit/
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	
学校名	専門学校未来ビジネスカレッジ
設置者名	学校法人 未来学舎

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		48人	43人	48人
内 訳	第Ⅰ区分	25人	20人	
	第Ⅱ区分	15人	16人	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				48人
(備考) 前期区分Ⅲに7月以降休学者 1名含む 家計急変者は、後期の人数には含めず（前期区分Ⅰ）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）
--	---------	---

	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)			
年間	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	1人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	
2023年9月退学者1名	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人

年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)			0人
G P A等が下位4分の1			4人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況			0人
計			4人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。